

(別紙4(1))

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100022		
法人名	岩手県高齢者福祉生活協同組合		
事業所名	岩手高齢協 ほっともとみや(1F)		
所在地	盛岡市本宮字小幡92-1		
自己評価作成日	平成23年1月5日	評価結果市町村受理日	平成23年6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390100022&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・個々の時間を作り、支援はしているが、利用者の状況が変わり困難な場合も見られる為、行事等で家族と過ごす時間を多くするよう支援している。家族も協力・参加してくれ感謝している。
・内服を減らす取り組みをしている。
・毎日散歩をし、地域の方々と挨拶をしたりして、地域も協力的で、恵まれている。・日中は施設しない取り組みをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・1階、2階とそれぞれの特性を踏まえた人員配置がされており、ユニットとしての機能を発揮するための配慮がなされている。就業における環境は良好で、所長をはじめとする職員間で、互いの意見を聞く体制が出来ており、更に本部に具申する体制も出来ている。また、職員の気づきを職員全員で検討し、改善に向けた努力がなされ、成果を上げている。また、開所当初から、身体拘束廃止に向けて取り組んでおり、周辺の交通量には激しい変化があるが、利用者の尊厳を守るため施設せずに見守りで対応している。
・事業所主催のイベントを開催し、地域の方々の協力や多くの参加を得ていること、近隣の中学校、高校の生徒との交流を図るなど、地域に根付いたホームづくりに努力している。
・ボランティアとしての「若者サポート」(求職中の青年)の活動を受け入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	みんなで考えた理念「和・輪・話」を大切に し、全員が確認できる場所に掲げ、日々のケ アにあたっている。	大きく書かれた理念が階段通路と、共有スペース に掲示してある。また、ミーティングの資料に記さ れている。常に理念を念頭におき、日々の業務に あたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	ご近所との挨拶、地域の文化祭や花壇作り など町内行事に参加、地域ボランティアとの 交流、ほっともとみや夏祭りに地域を巻き込 んで行なっている。防災訓練も主催し地域住 民と行なった。	事業所主催の夏祭りには、子供たちを含め、近所 の方々の多くの参加を得ている。中学生の福祉体 験学習受け入れをした際の生徒達からの感謝の 手紙が掲示してあった。県の事業である若者サ ポートを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	今年度は地域の方々は勿論のこと、中学生 の福祉体験(2校)の受け入れや若者サポ ートの受入をし理解していただいていると思う。 高校の文化祭やコンサートにも招待され参加 した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評 価への取り組み状況等について報告や話し合い を行い、そこでの意見をサービス向上に活かして いる	2ヶ月に1回の会議で町内会長、民生委員、 市の担当者、ご家族が参加し施設行事や予 定などを報告し、意見を伺い、職員全員で サービスの向上に生かしている。	会議は2ヶ月に1回開催している。委員から活発な 意見が出されている。服薬管理等(薬の朝と夜の 飲み間違い)の報告には「単純なことをしっかり守 りなさい」と意見を頂き、職員で改めて確認しあっ ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき、支援・指 導を受けている。	運営推進会議に出席して頂くほか、支援・指導を 受けている。また、スプリンクラーを設置するた め、指導を頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解して おり、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケア に取り組んでいる	身体拘束廃止の研修へ参加し、ミーティ ングで報告会を開き、拘束をしないケアに取 組んでいる。夜間以外は施錠をしていない。	身体拘束廃止の研修へ職員を参加させている。 ミーティングで報告を行い、拘束をしないケアに取 組んでいる。一度、家族が拘束帯を持参し希望 されたことがあったが、職員の尊厳を守りたいとい う思いにより、1回使用しただけで中止したこともあ る。以後、拘束帯等の使用はしていない。身体拘 束の勉強会は継続して行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につい て学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を 払い、防止に努めている	研修報告会を開き虐待防止に努めている。 家族が虐待してしまう為に防止策として当 ホームに入居した方がいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	知識としては理解しているが、特別に機会は作っていない。現在は該当者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に対し十分な説明をし、理解・納得していただいた上で契約や解約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とはかなり信頼関係は深まっているように思うが家族とは全員まではいっていない。しかし家族からの意見を受け入れられるよう臨機応変に対応している。毎月の家族への報告や、広報は地域にも回覧している。	「今を大切にしたい」というホームからの呼び掛けに、一層、家族との交流が増え、思いや意見を話してくれる家族が増えてきている。毎月、家族へ利用者の1ヶ月の様子を記録し、郵送している。(利用者の様子を伝える)記録の担当が毎回かわることも好評を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場の理事が理事会に出席し、提案している。毎月のミーティングや福祉部会、理事会などへ意見・提案をしている。	利用者の喜ぶ顔が見たいと言うのが職員のコンセプトにあり、いつでも、どんなことでも言えて、聞く体制が出来ている。最近では、空気の乾燥防止のために加湿器が導入された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいのある職場ではあるが、給与に反映されてはいない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験に応じた、研修会への参加を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH間の交換研修や料理講習などを通じ交流を深め、意見交換したり、運営推進会議には他のGHからの見学もあった。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で、本人の困っている事、不安な事、求めている事を聴きだせるよう1対1の会話のできる時間を作るようにしている。早く信頼関係を築かないと良いケアに結びつかない。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族は、胸の内を聞いてもらいたい思いが強いのでとことん聞くようにしている。スタッフ全員が対応できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が今何をどうして欲しいのかを聞きだしたり、医師からの意見や情報を参考にしたりしながら、その都度の変化にもすぐに対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	分からない事は教えていただいたり感謝の言葉はいつも交わしている。利用者・スタッフが感情の共有もしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に情報交換し合っている。健康状態や生活記録など一ヶ月の報告をさせていただいている。私達職員は、利用者と家族が良い関係である為の橋渡し役と考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでもどなたでも面会に来ていただけるよう配慮している。また外出にも同行し支援している。当ホームに入居した事で、今まで疎遠だった家族と会う機会が増え喜ばれている方もいる。	利用者が、ホームに入居した事で、家族関係が良くなり、喜ばれている方もいる。旅行会には、家族も含め、50人程の参加があり家族から継続を希望されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の間にスタッフが入り、談話したりレクリエーションなどで楽しい雰囲気作りに心かけている。時にはいさかいもあるが、当然の事と考え、ひどくならないようにしながら生活している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も訪ねて来てくださるご家族とは、以前と変わらず良い関係をさせていただき感謝している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一対一のコミュニケーション等で本人の希望、意向を把握し出来る限り叶えてあげられるように努めている 困難な場合は少しでも叶えられるよう努力している。	「ことば」を大切に、一対一のコミュニケーション等で本人の希望、意向を把握、出来る限り叶えられるように努めている。対応が難しい場合は、代替え(絵を見に行きたい＝写真集を見る)することもある。昼食時は、利用者、職員の会話がにぎやかであった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の好きな物や馴染みの暮らし方等、ホームでも続けていけるよう心懸けている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、様子等を毎日記録している 心身状態の変化があった場合は、スタッフの間で申し送りしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、本人の希望や家族からの情報を反映しながら作成している。さらに、現在のプランの作成に疑問を抱き、見直しを検討中である。	研修に参加した職員から、これまで問題点を主体にしたプランの作成が多かったかのではとの反省が出て、見直しを始めている。ケアの質の向上に向けて、努力されている様子がうかがえる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティング、カンファレンスでのスタッフ間の意見交換し話合っている 連絡ノートにて、スタッフ間の情報の共有もできている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望を家族に伝えながら支援している。可能な限り夜間であっても対応している。入院の際には、食事介助もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々には会議やイベント等に参加していただき協力してもらいながら支援している 毎月の若者ボランティアとの交流等		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に添って納得された、かかりつけ医とスタッフが情報交換しながら、適切な医療を受けられるよう支援している緊急時の体制も整えている。	かかりつけ医の定期的受診等、家族の都合が付かない場合は通院支援も行っている。かかりつけ医とは良好な関係が築けている。通院支援の結果は家族に情報提供をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職の情報を密にし、早い段階での状態変化や異常に素早く対応出来るように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来る限り早期に退院できるよう病院関係者、家族、看護師、スタッフが情報交換し連携を取りながら対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族を含めたカンファレンスを行い、突然余命一ヶ月の宣告を受けた方で、ご家族の希望としては、終末は病院だがそれまでは出来る限りホームで過ごさせたいとの事で、入退院を何度も繰り返しながらも対応させていた例もある。	利用開始時に、重度化に向けた説明をし同意を得ている。半数の方が、最期までホームで暮らしたい希望を持っており、希望に添えるよう体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習の受講 看護師からの応急手当、初期対応についての指導を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に地域の方々にも協力していただき避難訓練をしている。3月には地域で行なわれる防災訓練に参加予定である。	定期的に避難訓練を実施している。3月に、本宮地区の防災訓練に参加する予定である。近隣の介護施設との連携も考慮している。消防署の指導で、ホームの中での避難訓練も検討している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりのプライバシーを尊重し、相手の立場になりプライドを傷付けないような言葉かけに配慮している。言葉の暴力などにも気をつけながら対応している。	一人ひとりのプライバシーを尊重し、活動が少ない方には、時に、気付かせる言葉をかけたり、また時には、距離を置いたりそれぞれの個性に合った声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の以前の生活習慣を把握し、日常での表情やしぐさに注意して、本人の思いや希望を引き出せるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの利用者のペースに合わせ一日を過ごしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	床屋さんに来ていただき散髪したり、美容室へ外出したりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使った食事や誕生会等の行事に合わせて、工夫した食事に行っている 調理準備、食器洗い等、利用者とスタッフが一緒に行っている	1階と2階で同じ献立でも、買い物はそれぞれで対応し、食材は異なっている。また、調理担当の職員により、味付け、量も異なっている。食事中は冗談も出て、にぎやかに会話している。また、自主的に片付けに立つ利用者もいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量をチェック表に記録し、一人ひとりの摂取量に注意し食生活の支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る限り、毎食後行うように心掛けている 年一回の歯科検診		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の利用者の様子を把握している。出来る限り、本人の身体機能を向上させる為、介助しながらトイレでの排泄をするよう支援している	開所からの利用者もあり、介護度の変化はあるが、出来るだけトイレでの排泄を支援している。職員の熱意ある取り組みもあり、2名の方が、リハパンから布パンツに状況が改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれの排泄週間を把握し水分摂取、軽運動などを取りいれたり、食事にも注意している。やむをえず医師の処方の下、下剤を服用している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望に応じ、いつでも気持ちよく入浴していただけるよう支援している	利用者の希望に応じ、いつでも気持ちよく入浴していただけるよう支援している。午前中入浴される方が多い。入浴を嫌う方には、さりげなく誘導し入浴してもらう声掛けが上手な職員もあり、清潔保持もうまく実践されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の好きな時間に昼寝をしたり入眠してもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の内容を確認し、薬の管理、内服の支援をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の記憶や出来る力を活かして自分らしく暮らせるよう、その人に合った楽しみ事、気分転換の支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人的な散歩や買い物の支援はスタッフが直ぐに対応できるようにしているし、普段行けないような遠くへの外出には大型バス等を借りて、家族にも参加していただき外出している(浅虫水族館見学や繋温泉での忘年会など)	天気の良い日は30分を目途に、近くの観音様、お地蔵様まで散歩している。去年は、利用者や家族、職員で大型バスで旅行し、大変喜ばれた。参加者から、泊まりで温泉に行きたいと希望が出ている。外出(エスケープ含む)に同行し、支援も行っている。(3時間を超えることもある)	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談の上、お金は持っているが実際に使用する場合はスタッフが同行し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の自由になっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すよう、花や写真を飾っている。カーテンで光の調整をしている。加湿器による湿度の調整など。	居間・食堂には、家族が撮影した風景写真が展示され、片隅には元野球の監督であった方のために、紙で作ったボールとグローブ等も置かれている。利用者に馴染みの深いものが様々置かれている。ゆったりとしたソファで思い思いにくつろいでいる。窓が大きく明るい日差しが差し込んでいた。また、乾燥防止のための加湿器も置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いくつかのソファを配置し、ゆったりくつろいだり、利用者同志で楽しく会話ができる環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ってきていただき、居心地良く生活できるようにしている。(写真、タンス、仏壇など)	ベッドを利用している方、いない方(転倒の危険がある方は、マットレスと布団)の違いがあるが、テレビ、タンス、写真等思い出の品を持ちこみ、居心地良いお部屋づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個室には表札を、共用スペースにも表示をしている。カレンダーや記念写真、絵画などを展示したり、出来る事はどんどんやってもらっている。		